

## 第9回 UDCKTM データ倫理審査会

日時：2024年1月17日（水）10時30分～12時00分

場所：オンラインにて開催

### ○事務局より以下の事項について説明

データプラットフォーム事業の他エリアでの実証について説明

- 柏の葉データプラットフォームは、柏の葉エリアで生活者の利便性を向上させる価値の開発を進めてきたが、今後の戦略として全国展開を進めていく。
- 2024年1月より神戸市で実証している実証事業「KOBE Sports & Well-being City Project（以下神戸市実証事業）」の参加者100名にSLPのIDを発行する。また、神戸市実証事業で活用されているアプリ「ASICS WELLNESS CONSULTANT」を神戸市負担でD2Dに連携する。

柏の葉スマートシティ×株式会社明治「ヨーグルトで街にミライをプロジェクト」について報告

- 株式会社明治がブルガリアヨーグルト50周年というタイミングで、柏の葉の街を舞台にPRをしたり、ブルガリアヨーグルトを長期間摂取することで体の調子が良くなるのかを実証していく。
- 本件のように街を舞台に企業がPR・実証・新商品開発を進めていき、UDCKTMの人員が柏の葉の活用方法提案や企画立案に入ることによって事業化することを考えている。そこで得たUDCKTMの収益は、エリアマネジメントに還元していく。住民へのベネフィットを提供することが大前提であり、三方良しのサービスを創っていく。

○上記の説明を受けて、委員から以下の意見および提言を受けた。

#### 【データプラットフォーム事業の他エリアでの実証について説明】

- インシデント発生時の訓練はさらに重要になる。加えて、個別サービスでのインシデントであるのに、プラットフォームのインシデントと誤解され、柏の葉にまで影響が波及するリスクを想定して対策が必要だろう。
- エンドユーザからはSLPがプロントとして見えており、ワンストップで一義的な責任を負うことになる。各自自治体とどのような責任分解が整理できているのかが重要だろう。
- 全国展開の営業活動について、都道府県に注目するとよいだろう。第7次医療計画により社会保険の財源が市区町村から都道府県に集約されている一方、ユーザから見ると市区町村が実質的なフロントである。そういった背景を踏まえて、誰がどのようなペインポイントを持っているのかを捉えることに留意するとよい。

#### 【柏の葉スマートシティ×株式会社明治「ヨーグルトで街にミライをプロジェクト」について報告】

- ある企業に協力するかどうかの判断、例えば菓の治験はどうするのか、といった選択はUDCKTMが基準を作っていくと思われるが、お金を多く払って危険なものを試せる、といったことが無いように皆がメリットを享受できるよう追求し、そのことをきちんと理解してもらう必要がある。
- 柏の葉には本来の意味でのマルチステークホルダープロセス、つまり当事者一人一人が意思決定をするガバナンス、ができつつあるだろう。抽象的な「住民」ではなく様々なペルソナを見つめることを実施してきており、その精神や過程の積み重ねをストレートに発信していくことも重要だろう。
- 特定の企業やサービス以外が利用できなくなるなどの、閉鎖的な形は避けなければならない。オープンな側面がなくならないように原則に基づく判断が重要になってくる。この売上に達するまで、と金額で決めるとそもそもその設定額が正しいかわからないため、ある時間が来たらリリース、が結果的にフェアかもしれない。

○事務局より次回の審査会に向け、いただいた意見を検討する旨を回答し、閉会。

以 上